

こぶし だより

働く障がい者も
SSKW
働けるんだオレたちも



なかまの作品コンクールで大賞に輝いた青木トシイさんの『甘がき』

CONTENTS

- ① トピックス.....2P～3P
- ② 特集「なかまの作品コンクール」.....4P～6P
- ③ サポートーズ「藤倉恒男氏」.....7P
- ④ アドレス・編集後記8P

No. 337

2010
3

トピックス

いづしの会 それぞれの現場から

Topics

基盤整備事業による 増築・改修工事

平成二二年度の事業移行に向けて、こぶしの会でこれまで様々な動きがとられてきました。

その一つとして、障がい者就労訓練設備等整備事業（以下基盤整備事業）を活用し、現在の県東ライフサポートセンター・真岡の建物と同敷地内に二階建ての増築を行い、来年度からの新たな事業展開を図ることとなりました。

増築部分はセルプ・みらいの管轄となり、今後は県東真岡と連携をとりながら真岡地区での事業を行っていくこととなります。基盤整備事業の申請や業者選定など、入念に準備を行い、



セルプ・みらいの新たな拠点となる
食品工場

無事に申請が認められ、一二月末より工事を開始しました。工事期間はおよそ二カ月を予定され、日に日に工事が進み、新しい建物ができ

上がっていきました。これまでは看板もなく、建物の場所がわかりにくいという声もありましたが、今回の建物には「社会福祉法人こぶしの会」と大きく名前が入りました。

新たに増築された建物では食品の加工を中心に行っていくことを予定しており、また、階段昇降機もとつけられ、障がいがあっても利用しやすい形で建築されています。これまでのセルプ・みらい、県東ライフサポートセンター・真岡とあわせて、真岡地区の新たな拠点として活用していきたいと考えています。

同時に、基盤整備事業を用いて、県東ライフサポートセンター・真岡でもトイレの改修を行いました。これまでは非常に狭く、和式のトイレにホームセンターで購入した洋式ユニットを乗せているという使いにくいものでしたが、今回の改修で大幅に広くなり、これまでよりもずっと使いやすく改修されています。

工事期間中は業者の方たちが多く出入りし、作業の音が非常に大きかったため、「音が大きくて集中できない」と話す利用者もいましたが、実際に改修が終わったところを見て、「これだけ綺麗になるなら、音が大きくても我慢できるわ」と話していました。

来年度からは、この新しい建物を活用しながら真岡地区での事業を展開していくこととなります。食品加工以外にも、メール便などの仕事も行っていく予定です。皆で力を合わせながら、真岡地区をもっと盛り上げていきたいと思っています。

(松本)

障害者自立支援セミナーに 250人が集まる

いづしの会も障がい者の連帯に大きく貢献

二月二〇日（土曜日）、県内一四の障がい者団体が呼びかけ、宇大工学部（宇太陽東キャンパス）アカデミアホールで、どうなる新法、どうする障害者自立支援法をテーマに、障害者自立支援法セミナーを開催しました。当日集まったのは、当事者や関係者、県職員、議員など総勢二五〇人。ホールいっぱいになりました。社会福祉法人こぶしの会の利用者、家族、後援会員、職員もきょうさんとちぎ支部を通じて参加。セミナーを盛り上げました。また、本法人も村上、鈴木、宮下評議員も障がい者団体の役員として、セミナーの中心的役割を果たしました。

基調講演では、こぶし作業所後援会長である谷博之参議院議員（民主党障がい者政策推進議員連盟会長）が、新法制定に向けた民主党の考えを報告。第二部のパネルディスカッションでは、これからの障がい者政策に期待するとして、精神障がい、発達障がい、知的障がい、聴覚障がい、事業者団体から、それぞれの思いを伝え、まさに、障害者自立支援法が取りもつ縁で、隣の障がいを理解しあうすばらしい機会となりました。また、最後に、第二弾の目的である県内の障がい関係のローカルセンター「栃木障がいフォーラム（TDF）」結成の呼びかけ



講演の様子

障害者自立支援法が施行されて四年が経ちました。この間、障がい者団体の制度見直しの大きなうねりは、政権交代というかたちで反映し、新政権の障害者自立支援法廃止や障がい者制度の根本的な改革という方向へ大きく舵をとりうとしています。民主党政権は

(左記)を高らかに謳い、セミナーを開会しました。すでに、栃木障がいフォーラム(TDF)準備会も開催され、セミナー参加団体を上回る二一団体が参加をしています。障害者自立支援法下での私たちの大きな運動が、当事者のねがいに応えるものにするためにも、こぶしの会に係わる多くの皆さんも参加いただくようお願いします。

「「栃木障がいフォーラム(TDF)」結成の呼びかけ文から」

とちぎ障害セミナーに参加した皆さんに呼びかけます

―栃木障がいフォーラム(TDF)の結成に参加しましょう―



シンポジウムの様子

のメンバーが参加し、すでに「障がい者制度改革推進会議」の第三回会議も開かれています。

これからの新法は、私たち障がい者のねがいに応えることはもちろん、障害者権利条約の批准、障害者総合福祉法、障害者虐待防止法、障害者差別禁止法など、国際的に確認された水準を具体化するものでなくてはなりません。

とちぎ障害セミナーに参加した皆さん。こうした流れを大きく変えた原動力は、障害者権利条約の批准という一点で大同団結した日本障がいフォーラムの力が大きく影響してきたことは間違いないです。私たち栃木県内の障がい者関係団体も、新たな「障がい者制度」が、私たちの意見を聞き、住み慣れた街で安心安全に快適で生活できる環境となるよう、こうした全国の動きに積極的に参加し、動きを監視していく必要があります。

とちぎ障がいセミナーに参加した皆さんに呼びかけます、日本障がいフォーラム(JDF)

「障がい者制度改革推進本部」を設置して新たな施策を模索しています。それには、多くの障がいがある当事者から構成される二四名

の栃木県版として、新たに「栃木障がいフォーラム(または、とちぎ障がいフォーラム)(TDF)」(仮称)を結成して、障がい者団体の連携を推進していきましょう。

この「TDF」の目指すところは、次のようなことを考えています。

1、栃木県における障がい者団体の連携づくり
2、団体間の情報交換、相互の理解と研鑽の場づくり

3、「障害者条例」など権利擁護のための政策づくりと共同の取り組み

4、その他、必要な取り組み

国連における障害者権利条約の批准、一方の日本における障害者自立支援法の混乱と現在に至る経過の中で、私たちは、「障がいある当事者を主人公に、障がい者制度を決めること」を、また、「障がい団体の連携」の大切さを痛感してきました。TDF(仮称)は、この二つを大切なバックボーンとして活動していきたいと考えています。

これから年次総会を迎える県内の障がい団体の皆さん。新年度の事業計画の話し合いの中で、「栃木障がいフォーラム」(仮称)結成にご参加くださるようご検討いただき、私たちの望む新しい法律と地域社会を実現するために大きく団結されるよう呼びかけるものです。

二〇一〇年二月一九日

とちぎ障害セミナー実行委員会

参加団体一同

特集

なかまの作品コンクール

昨年度こぶしだより紙上で実施した「なかまの作品コンクール」を憶えている方はどのくらいいらっしゃるでしょうか。昨年度は大好評で、「またやってほしい」という読者の方からの強い要望もあり、今年も絵画作品の募集を行い、コンクールを実施しました。皆さまのご協力で多くの作品が集まりました。その中から特にすばらしいと思う作品を、画家の手塚博也先生及び各施設長に審査をお願いし、選出していただきました。それらの作品をここに紹介させていただきます。

【手塚博也氏 プロフィール】

手塚先生には、けやき作業所の生活介護事業で月に2回、美術活動に来ていただいています。絵画や工作、カレンダー作りなど、年間を通して様々な作品づくりのご指導やアイデアをいただいております。さくら市にあります「遊遊絵画研究所」では、大人と子どもたちへの絵画の指導もされています。

- ・日本美術家連盟会員
- ・一般社団法人日本清興美術協会理事

大 賞

「甘 が き」

青木トシイ（けやき作業所）

《審査員評》背景処理が楽しいですね。まっすぐな気持ちで描かれた元気のいい作品です。



審査委員長賞

「ひまわり」

芝山千代子（けやき作業所）



《審査員評》描いている姿勢が前向きで、意欲が作品に良く表れています。これもとっても元気でよい作品です。

編集委員長賞

「僕の顔」

鈴木 貴大（セルフみらい）



《審査員評》空間のとり方がとても面白い。イメージが広がりそうな、内面をも見えるような良い作品です。



「山と空」

池田 善穂(こぶし作業所)

《審査員評》山・水・海・崖、エネルギーに満ちていますね。縦のタッチで描かれた空にもパワーを感じます。



「ひろこちゃんたちとお花」

星 春佳(こぶし作業所)

《審査員評》画面いっぱいに花が描かれて、しかもちゃんと数種類の花が描かれています。その中にありながら人物がちゃんと目立っている楽しい作品です。



「ゴンちゃん天国へ」

直江竜太郎(けやき作業所)

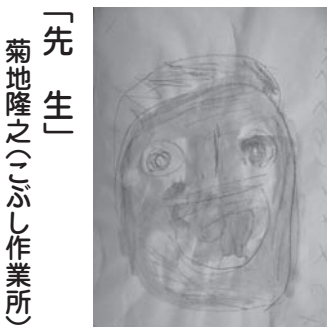
《審査員評》猫の表情に感情がよくこもっています。勢いのあるタッチで描かれています。



「怪獣」

飯野 芳明(こぶし作業所)

《審査員評》流れるような線で描かれていて力強さを感じます。



「先生」
菊地隆之(こぶし作業所)

《審査員評》淡い色彩ですが、人物の表情がとてもよく、大きく描かれていて良い作品です。



「花」
小坂英子(セルブみらい)

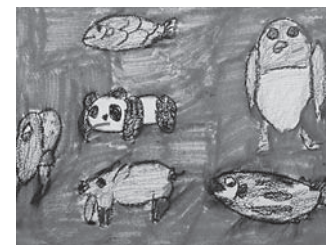
《審査員評》淡い色ですがグラデーションがよく効いています。



「我が家」

平石 利香(けやき作業所)

《審査員評》色使いがとても楽しい良い作品です。

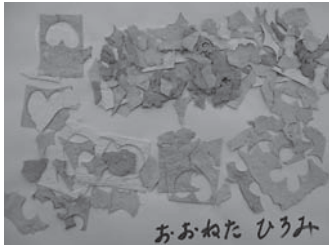


「いろいろな動物」

高島 正彦(こぶし作業所)

《審査員評》ひとつひとつの線が太く力強く描かれた生命を感じる作品です。

入 賞



「春の色」

大根田宏三(けやき作業所)

《審査員評》手漉きの紙特有の優しさを感じる作品です。桜の花や新芽の優しい感じが良く出ています。



「ぼくの家」

関本 光男(けやき作業所)

《審査員評》細かいところまでしっかり表現できています。テレビやくつなど生活している感じが良く出ている良い作品です。



「春の山」

直井 信也(けやき作業所)

《審査員評》昨年発表された本人の作品と比べて色使いに明らかな工夫がされるようになりました。緑の山の中にピンクの花の色が表現された良い作品です。



「花の中をバスが行く」

坂田 実(けやき作業所)

《審査員評》ご本人の描いている様子を毎回見っていますが、黙って描き始め、真剣に黙々と描いている、その姿勢がすばらしい方です。素朴でそれでいながら誰にでも描けるような作品ではありません。このままいろんな花を入れたり、飛行機など描き込んで、豊かな作品にしていってほしいです。



「私の家族」

小林 カク(けやき作業所)

《審査員評》いろんな色が描かれていて楽しいです。配色も良いです。ただ、太陽が角にきてしまったのが少し残念でした。



「親子」

塚本 展子(けやき作業所)

《審査員評》半分寝ているような表情が素朴です。チューリップや雲もタッチがとても温かいですね。

受賞された方、おめでとうございます。今回受賞された作品は4月に行われる「荒馬座コンサート」の会場に展示されます。また、受賞者の方には記念品として額縁を贈呈させていただきます。また、この場を借りまして、作品を応募してくださった利用者の方々、お忙しい中審査に参加してくださった審査員の方々に、心から御礼申し上げます。

こぶしSupporters

後援会
保護者会・ボランティアのページ

サポーターズ

～ こぶしの会を地域の大切な社会資源に育てるため、私たちは強力にバックアップします ～

～ 藤倉 恒男 氏 ～

今回のサポーターズでは、当法人の監事を担っていただいている藤倉氏をご紹介します。

○こぶしの会に携わるようになったきっかけはどのようなものだったのでしょうか？

定年退職を迎えるまでは、企業で経営企画の仕事をしていました。知人の紹介で、「監査の仕事はどうでしょうか？」とお声をかけていただきましたので、これまでの経験と実績を活かして、監事としてこぶしの会に関わるようになったのが始まりでした。もう、今年の1月で5年目を迎えることになりましたね。



○施設に対する私のボランティアの原点は、ここにあるような気がするのです。

共同作業所としての役割は、福祉と作業（生産活動）だと思います。作業とは一般的に言えば「仕事」ですよね。人は仕事を通して、お金をもらい、家族を養うという経済行為と「満足感」「やりがい」「生きがい」「生き方」を求め成長していくのだと思います。本当は経済行為よりも、大きいかもしれません。そこにその人の人生があり、個性が発揮されるものだと思います。これは、障がい者も同じだと思います。

ある障がい者施設の講演会の話の中で、「障がいをもっているということは、一つの個性をもっていることだ」、「私たちはそんな個性を活かしながら、作業している」という意味のことを聞いた記憶があります。宮城県にある、はらから福祉会の豆腐製造の本にも、同じようなことがあったと思います。

健常者は、作業に合わせられる。障がい者の場合、「個性」に合わせ仕事を開発していくことが大切だと思います。「言うは易し」で実際難しいことであることは理解しているのですが、でも、誰かがやらなければならない。できている作業所があるのだから……。

○こぶしの会を見てくださって、どのような法人だと思われますか？

こぶしの会は、大きくは4つの事業所（こぶし作業所、けやき作業所、第2けやき作業所、セルフ・みらい）がありますが、それぞれの作業所の育ちが違い、違ったカラーをもっているように感じます。良い面と悪い面があると思います。その特長をうまく捉える必要があり、そのカラーが強すぎないようにし、法人全体としての考え方も必要だと思います。まだ、少しセクショナリズムでないかと思うことがあります。

○お答えづらいところだとは思いますが、監事としてこぶしの会を見ていただいて、期待したいことや欠けているところはあったところにあるのでしょうか？

共同作業所は、福祉と作業（生産活動）が車の両輪ではないかと思っています。福祉については専門的知識も豊富で、すばらしいものをもっていると感心しているのですが、もう一方の車がなんとなく心もないうような気がします。先に述べたように「その人の人生」つまり、自立（経済的、精神的）に重要な位置づけとなる仕事に対する姿勢ができていないと思われる点があります。生産・販売・流通をつかさどる人が育っていない。福祉の一部が生産活動という捉え方をしているのだと思います。「車の両輪」なのですから、両方とも重要なことなんですから……。

例えば、法人内には、自治会、保護者会、後援会等が組織されていますが、生産活動に重要な、販売に十分活用されていない。地域の人たちを巻き込み活用すべきところであり、ことに後援会など、実際の数さえ把握されていない。はらから福祉会の出発点は、ここであったはずですが、また、この「両輪」を支えるべき管理部門が、うまく機能していないと思います。何か、力が入り、硬い話になってしまいました。

新しく、すばらしい「こぶし作業所」も出来上がり、種々の投資をして、県内で一番の作業所である「こぶしの会」が、より発展していく姿を見守っていきたいと思っておりますので、頑張ってほしいと思います。

私たちボランティアは、専門性をもって（かつての経験でも良い）支援し、応援できればと思っており。そして、自分の任されている「監事」の専門性を発揮し、突っ込んだ支援ができればと思っており。

社会福祉法人
こぶしの会

- こぶし作業所 ☎321-0126 栃木県宇都宮市茂原町837-1
・就労移行支援事業 TEL 028 (653) 1020 FAX 028 (688) 1121
・就労継続支援B型事業 E-mail kobushi@chive.ocn.ne.jp
・生活介護事業
・自立訓練(生活訓練)
 - 障がい者生活支援センター こぶし ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401
・在宅障害(児)者の相談・支援 TEL 028 (613) 5703 FAX 028 (666) 6128
E-mail kobushi-sw@tenor.ocn.ne.jp
 - こぶしのときわ荘 ☎321-0139 栃木県宇都宮市若松原2-6-8
・知的障害者ケアホーム TEL 028 (653) 1477
 - く る み ☎321-0912 栃木県宇都宮市石井町字内野2867-3
・知的障害者ケアホーム TEL 028 (664) 0414
 - けやき作業所 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244
・就労継続支援B型事業 TEL 028 (687) 1040 FAX 028 (677) 5789
・生活介護事業 E-mail keyaki@carrot.ocn.ne.jp
・日中一時支援事業
 - 第2けやき作業所 ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532
・就労移行支援事業 TEL 028 (677) 0495 FAX 028 (687) 4818
・就労継続支援B型事業 E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
 - 県東ライフサポートセンター ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532
「ほっとCHA」 TEL 090 (7820) 9165
・地域活動支援センター
 - 県東ライフサポートセンター「真岡」 ☎321-4305 栃木県真岡市荒町3-9-5
・就労移行支援事業 TEL 0285 (83) 2567 FAX 0285 (83) 2567
・就労継続支援B型事業
 - ホームひまわり ☎321-3321 栃木県芳賀郡芳賀町大字下高根沢字下原3932-79
・知的障害者ケアホーム TEL 028 (666) 4253
 - けやきハイツ ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井178
・知的障害者ケアホーム TEL 028 (677) 2876
 - 第2けやきホーム ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井1204-4
・精神障害者グループホーム TEL 028 (677) 0776
 - コーポ 峰 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井775-2
・知的障害者ケアホーム
 - セルプ・みらい ☎321-4363 栃木県真岡市亀山1043-23
・就労移行支援事業 TEL 0285 (81) 1155 FAX 0285 (81) 1177
・就労継続支援B型事業 E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp
・生活介護事業
 - ぼてっと ☎321-4364 栃木県真岡市長田1-12-5
・知的障害者グループホーム
 - 芳賀地区障害児者相談支援センター ☎321-4305 栃木県真岡市荒町110-1 市総合福祉保健センター内
・在宅障害(児)者の相談・支援 TEL 0285 (80) 7765 FAX 0285 (80) 7765
 - 県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」 ☎321-4305 栃木県真岡市荒町111-1
・障害者の就業相談・支援 TEL 0285 (85) 8451 FAX 0285 (85) 8452
-
- 法人本部 ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401
TEL 028 (613) 3707 FAX 028 (666) 6128
E-mail sphb8h99@jewel.ocn.ne.jp

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください(閲覧時間 8:30 ~ 17:00)

編集後記

今回の「なかまの作品コンクール」にはたくさんの応募ありがとうございました。審査の場面には立ち会うことはできませんでしたが、すべての作品を見させていただきました。細かいところまで丁寧に描かれているものや、力強いタッチで迫力があるもの、大胆な色使いではっとさせられるものなどなど、一枚一枚に個性があって素晴らしかったです。これからも機会があったらどんどん描き続けていてもらいたいと思います。そして、また今回のような企画があった時にはぜひ応募してください。

桜も満開が過ぎ、サクラ吹雪が美しい季節です。皆さんがどんなふうに桜を描くのかな・・・
(河原)

編集委員

松本 裕生 河原 とき子 菊地 豊 星野 早苗 廣本 佳奈子